

令和8年5月26日発行

栗原普及センターだより

「くりはら」

163号



くりはらのりんごの花が咲きました！

新緑の中から薄紅色のりんごの花が顔をのぞかせています。

りんごは、春から夏にかけて蓄えた栄養で秋に花芽を付け、冬を越えて4月に開花を迎えます。

せん定や定期的な防除など、日々のきめ細やかな栽培管理によってたくさんの花が咲き、秋には美味しい“くりはらのりんご”が実ります。

普及センターでは今後くりはらのりんご生産を支援していきます。

新年度の「挨拶」

栗原農業改良普及センター

所長 小高 勝範

この度の異動により、着任いたしました小高と申します。自然豊かで食材の宝庫であるこの栗原地域に勤務できることを、心から喜ばしく感じております。

さて、農業を取り巻く情勢は、中東地域の緊迫化に伴う燃料・資材価格の高騰や、気候変動に伴う農作物への影響、さらには、米不足に伴う米価高騰や、担い手の減少と高齢化など、食の安定供給に対する不安が増しています。このような中、これまでの延長線上ではない、新たな技術の導入や生産構造そのもの変革など、新しい視点での取り組みが重要です。

県では本年二月に、「みやぎ食と農の県民条例基本計画」を改定し、その目標に向けた各種施策を展開することとしています。

当普及センターでは、「加工用たまねぎの直播栽培技術の確立による土地利用型経営体の発展」、「農地整備を契機に設立した農業法人の運営安定化」の二つのプロジェクト課題を重点的に推進するとともに、地域の各種課題にも積極的に取り組んでまいります。

栗原地域の農業・農村のさらなる発展のため、引き続き、職員一丸となって農業者の皆様を支援してまいりますので、どうぞよろしくお願いたします。

令和8年度プロジェクト課題活動紹介

No.1 加工用たまねぎの直播栽培技術の確立による 土地利用型経営体の発展

栗原地域では、令和4年度からたまねぎを地域振興品目に定めて、育苗や定植作業のコスト低減につながる直播栽培の生産振興に取り組んでおり、令和8年産はおよそ7haまで作付面積が拡大しています。

一方で、播種時期の遅れによる生育不良や苗立ち率の低下、べと病の発生など、栽培上の課題が明らかとなっていることから、普及センターでは、

関係機関と連携しながら、令和8年度も引き続き播種時期や品種選定の試験を実施して、地域に適した直播栽培技術の確立を図っていきます。

さらに、大規模栽培体系の実現に向けて、RTKを活用したスマート農機の実証を行うとともに、たまねぎを核とした収益性の高い土地利用体系を構築できるよう、他品目との輪作による作付体系の検討を実施します。



【RTK直進アシスト農機による作業】



【収穫されたたまねぎ】

No.2 農地整備を契機に設立した農業法人の運営安定化

栗原市金成有壁地区では、効率的で生産性の高い地域営農を確立することを目的として農地整備事業が計画され、令和7年度に採択されました。この動きに平行して、地区内では以前から農地整備地区の農業の担い手となる法人設立を目指した話し合いが進められてきました。その結果、令和8年4月に農事組合法人有壁が設立され、農地整備事業完了後には農地の約9割を集積する計画となっています。また、有壁地区では令和3年から宮城県のオリジナル酒造好適米品種「吟のいろは」の栽

培に取り組んでおり、新法人の主力品目として位置付けられています。

普及センターでは、令和6年度から有壁地区の法人設立等について支援してきましたが、本年度以降も農事組合法人有壁の運営面や農地整備事業の進展に伴う経営規模の拡大に向けた体制整備について引き続き支援します。また、生産面においても「吟のいろは」の虫害、雑草等の適期防除による品質の安定化や地区内の実需者である酒造会社との連携強化について支援していきます。



【農事組合法人有壁の設立総会】



【「吟のいろは」の栽培ほ場】

本年度、栗原管内から新たに青年農業士2人が認定されましたのでご紹介します



浅野 晃史 氏 (栗駒)

平成20年に就農し、米生産を中心に経営しています。経営規模の拡大に伴いスマート農業機械を導入し、より効率的な農業経営を実践しています。地域の転作組合に加入してWCS栽培にも携わり、地域農業の中心的役割を担う人材として期待されています。



千葉 颯太郎 氏 (築館)

幼い頃から農業に興味をもち、宮城県農業大学校を卒業後就農しました。水稻と大豆の生産に取り組み、スマート農業を取り入れながらも「作物を自分の目で見て確認する」ことを重視した栽培を心がけ、堅実な農業経営を実践しています。

宮城県農業大学校 令和9年度入校生募集案内

宮城県農業大学校は、農業の近代化と経済社会の発展に対応できる「高度な知識・技術」を身につけた優れた農業経営者と、農村地域の指導者を育成することを目的として、実践的教育を行う2年制の専修学校です。令和9年度の入校生を次のとおり募集します。

- ・ **募集人員**：55人（水田経営学部15人、園芸学部15人、畜産学部15人、アグリビジネス学部10人）
- ・ **受験資格**：高等学校卒業者（令和9年3月卒業見込みの者を含む）又は、これと同等以上の学力があると認められ、本県農業の振興に貢献する意欲がある者。

・試験概要

試験区分	募集期間（必着※3）	試験日	試験科目
推薦入校試験 （学校長推薦） （地域推薦）※1	令和8年9月1日（火）～ 9月15日（火）	令和8年10月1日（木）	○筆記試験 小論文 ○個人面接
一般入校試験 （前期）	令和8年11月4日（水）～ 11月17日（火）	令和8年12月2日（水）	○筆記試験 現代の国語及び 言語文化（古典除 く）、数学Ⅰ、 小論文 ○個人面接
一般入校試験 （後期）※2	令和9年1月18日（月）～ 2月1日（月）	令和9年2月16日（火）	

※1 既卒者を対象とした推薦制度。卒業後、県内において認定農業者又は認定新規就農者を目指すか、認定農業者（農業法人を含む）の後継者で、県内において当該経営を継承する意思がある者を普及センター所長等が推薦します。詳しくは普及センターにお問合せください。

※2 定員に達した学部は、一般入校試験（後期）を実施しないことがあります。

※3 願書受付は、各募集期間最終日の17時必着となります。

◆ 推薦入校試験の募集人員は学部定員の8割程度とします。

お問い合わせ先：宮城県農業大学校 教務部
学生班・教務班 TEL 022-383-8138

経営相談

受付中です！ 普及センターでは、経営相談を随時受付しています。

I ご相談内容の例

- ・ **事業承継**・農業を後継者に引き継ぎたい！
- ・ **農業会計**・単式簿記から複式簿記にしたい！
- ・ **法人化**・経営を法人にしたい！
- ・ **経営計画**・5年後の経営計画を作りたい！

相談者様の声

息子への事業承継をするための、確認点や注意することを教えてもらい、農業経営をスムーズに引き継ぐことができました！

II お申込手順

- ① 下記の連絡先に、ご連絡ください。
- ② 日時を決めて、相談内容の面談を実施します。
- ③ 具体的な対策を検討します。
- ④ 解決までの伴走支援を行います。
- ⑤ 目標達成！

III お問い合わせとお申し込み

宮城県栗原農業改良普及センター 担当：津和木または船山
電話番号：0228 (22) 9404
電子メール：nh-khnkt@pref.miyagi.lg.jp

栗原農業改良普及センターの活動や各種相談、技術情報（稲作通信等）はここから！⇒



令和8年度 栗原農業振興部（農業改良普及センター）職員紹介

総括技術次長
【野菜・経営】
ふな やま
船 山

部長兼農業改良
普及センター所長
【作物】 転
お だか
小 高

総括次長
【野菜】
み かみ
三 上

技術次長
(経営支援担当)
【畜産】 再
さ さ き
佐々木(吉)

地域農業班

技術次長(班長)
【花き・経営】
さとう
佐藤(英)

技 師【花き】
あら かわ
荒 川

技 師【野菜】
さ さ き
佐々木(彩) 転

技 師【果樹】
あい ざわ
相 澤

〈主な業務〉
・地域農業振興計画、
地域営農システム構築の支援
・多様な担い手の確保・育成
・農業士
・新規就農者及び女性農業者の
育成

先進技術班

技術主任主査(班長)
【野菜】
つわもと
津和本 転

技術次長【野菜】 延
さとう
佐藤(聖) 転

技 師【作物】
かわ ばた
川 端 転

技 師【作物】 新
きた やま
北 山

会計年度任用職員
ち ば
千 葉

〈主な業務〉
・生産技術改善、
経営管理高度化の普及指導
・主要農産物の種子生産
・農産物の流通及び利活用
・生産組織の育成

地域調整班

次 長(班長)
みず たに
水 谷

技術主任主査
さとう
佐藤(啓) 再

主 事
こ まる
小 丸

農地中間管理機構

み うら
三 浦

えん どう
遠 藤

〈主な業務〉
・農業振興地域の整備、農地転用
・農業金融
・環境保全型農業、土壌汚染対策
・農地中間管理事業、
経営所得安定対策

★ 新 : 新規採用職員 ● 再 : 再任用職員 延 : 定年延長職員 転 : 令和8年度転入職員

～ 春の農作業安全について（熱中症とクマに注意！）～

近年は平均気温が高い傾向が続いています。農作業中の熱中症は7月から8月にかけて最も多く発生しますが、春先から初夏においても、ビニールハウス内で熱中症による死亡事故が発生することもあるため、注意が必要です。こまめな水分と塩分の補給や適度な休憩など、命を守る対策を心がけましょう。

また、人里近くにおけるクマの出没が増加しています。クマとの遭遇や被害を防ぐため、県のホームページで目撃情報を確認するとともに、農作業中は大きな音でラジオを鳴らして人がいることをクマに知らせましょう。万が一遭遇した場合は、クマを刺激しないよう、騒がずにそっと立ち去ることが大切です。



※ 本イラストは生成AIを活用して作成しています。

